

令和8年9月1日

予察情報8-13

病害虫発生予察情報 第6号

富山県農林水産総合技術センター所長

9月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期	
水稲	いもち病（穂いもち）	少ない	－	野菜	白ねぎ	さび病	少ない	－
	斑点米カメムシ類		－			軟腐病	並	－
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	並	－			黒斑病・葉枯病	並	－
	アカスジカスミカメ	並	－			ネギアザミウマ	多い	－
	トゲシラホシカメムシ	並	－			ネギハモグリバエ	並	－
	クモヘリカメムシ	並～やや多い	－			シロイチモジヨトウ	多い	－
	ツマグロヨコバイ	多い	－	果樹	果樹全般	カメムシ類	やや多い	－
	ヒメトビウンカ	並	－		りんご	褐斑病	並	－
	セジロウンカ	やや少ない	－			炭疽病	やや多い	－
	トビイロウンカ	並	並			ハダニ類	並	－
	コブノメイガ	少ない	－			カイガラムシ類	少ない	－
大豆	紫斑病	やや多い	－			シンクイムシ類	多い	－
	フタスジヒメハムシ	やや多い	－		日本なし	黒星病	少ない	－
	アブラムシ類	並	－			ハマキムシ類	多い	－
	ハスモンヨトウ	並	－			ナシヒメシンクイ	多い	－
	吸蜜性カメムシ類	多い	－			ハダニ類	多い	－
	ハダニ類	やや多い	－			カイガラムシ類	少ない	－
野菜全般	ハスモンヨトウ	並	－		ぶどう	べと病	少ない	－
	ネキリムシ類	やや多い	－			黒とう病	少ない	－
	タバコガ類	多い	－	かき		フジコナカイガラムシ	並	－
				もも		せん孔細菌病	並	－
				花き 球根	きく	アブラムシ	やや多い	－
					花き全般	ハスモンヨトウ	並	－
						タバコガ類	多い	－

発生量

多い : 平年比 141%以上
やや多い : 平年比 121%以上 140%以内
並 : 平年比 80%以上 120%以内
やや少ない : 平年比 60%以上 79%以内
少ない : 平年比 59%以下

発生時期

早い : 平年値より 6 日以上早い
やや早い : 平年値より 3～5 日早い
並 : 平年値を中心として前後 2 日以内
やや遅い : 平年値より 3～5 日遅い
遅い : 平年値より 6 日以上遅い

予報の根拠中

(+) : 発生量が多くなる要因、(±) : 平年並み発生要因、(－) : 少なくなる要因

(早発) : 発生が早くなる要因、(並) : 平年並になる要因、(遅発) : 遅くなる要因 をそれぞれ示す。

I 水 稻

1 いもち病（穂いもち）

(1) 予報内容 発 生 量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・ 8月20日調査の穂いもち発病株率は0%で、平年(0.0%)並に低かった。(－)
- ・ 9月28日にかけての気温は高いと予想されている。(－)
- ・ 9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ 防除指針：34～35 ページ参照



図1 穂いもちり病穂

2 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

(1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0頭で、平年(0.07頭)より少なく、確認地点率も0%で平年(3.5%)より低かった。(－)
- ・ 9月28日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- ・ 9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ 成熟期が遅いほ場周辺の畦畔では、イネ科雑草の穂が出ないように引き続き草刈りを徹底する。
- ・ 農薬散布後も水田内に斑点米カメムシ類がみられる場合は、収穫前日数に留意し、追加防除を実施する。
- ・ 次年度の発生量を抑制するため、刈り取り後はひこばえが出穂する前に秋耕を実施する。
- ・ 防除指針 44、46～47ページ参照

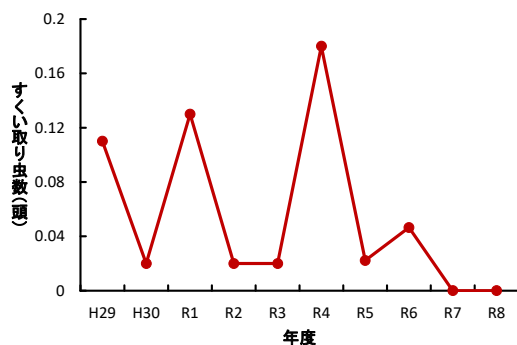


図2 アカヒゲホソミドリカスミカメの本田すくい取り状況年次推移（8月20日調査）



図3 アカヒゲホソミドリカスミカメ

3 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

(1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0頭で、平年（0.15頭）より少なく、確認地点率も0％で平年（6.7％）より低かった。（－）
- ・ 9月28日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）
- ・ 9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）

(3) 防除対策

- ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・ 防除指針：44、46～47ページ参照

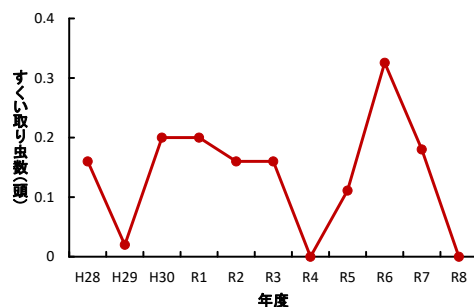


図4 アカスジカスミカメの本田すくい取り状況
年次推移（8月20日調査）

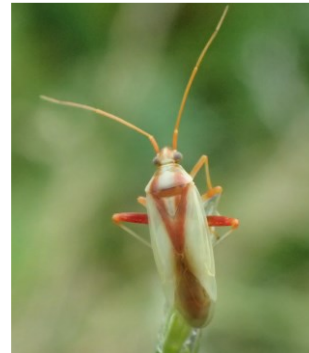


図5 アカスジカスミカメ

4 斑点米カメムシ類（トゲシラホシカメムシ）

(1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.02頭で、平年（0.09頭）より少なく、確認地点率も2.2％で平年（5.3％）より低かった。（－）
- ・ 9月28日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）
- ・ 9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）

(3) 防除対策

- ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずるとともに、本種が優先するほ場においては、有機リン系剤等で防除する。
- ・ 防除指針：45～47ページ参照

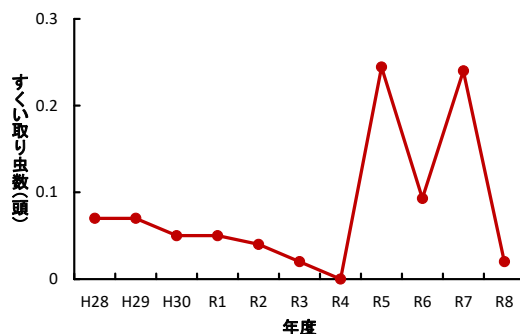


図6 トゲシラホシカメムシの本田すくい取り状況
年次推移（8月20日調査）

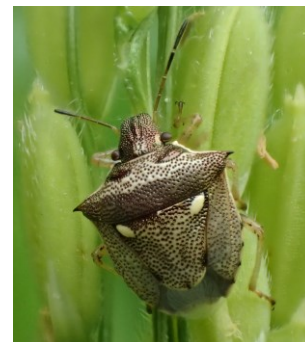


図7 トゲシラホシカメムシ

5 斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ）

- (1) 予報内容 発 生 量：並～やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.17頭で、平年（0.18頭）並、確認地点率は8.9%で平年（4.9%）より高かった。（±）
 - ・ 9月28日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
 - ・ 9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
 - ・ 防除指針：44、46～47ページ参照

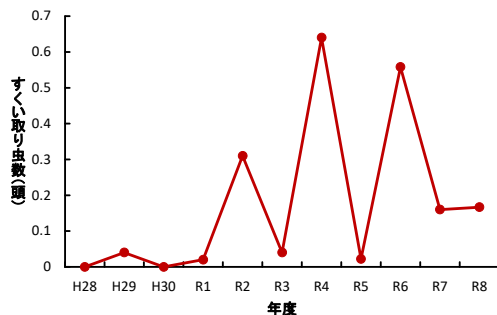


図8 クモヘリカメムシの本田すくい取り状況
年次推移（8月20日調査）



図9 クモヘリカメムシ

6 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・ 8月20日調査のすくい取り虫数は49.6頭で、平年（18.3頭）より多かった。（+）
 - ・ 9月28日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
 - ・ 9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：41ページ参照



図10 ツマグロヨコバイの雌成虫（上）
と雄成虫（下）

7 ヒメトビウンカ

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は40.6頭で、平年（59.3頭）よりやや少なかった。（-）
 - ・ 9月28日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
 - ・ 9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：42ページ参照

8 セジロウンカ

- (1) 予報内容 発 生 量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.4頭で、平年(5.6頭)より少なかった。(－)
 - ・ 9月28日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・ 9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針：42ページ参照

9 トビイロウンカ

- (1) 予報内容 発 生 量：並
 発生時期：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 現在、発生は確認されていない(平年の初発は8月31日)。(±、並)
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針：42ページ参照

10 コブノメイガ

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・ 現在、発生は確認されていない(平年の初発は8月1日)。(－)
- (3) 防除対策
 - ・ 晩植田で多発することが多いので注意する。
 - ・ 防除指針：43ページ参照

Ⅱ 大 豆

1 紫斑病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
- (2) 予報の根拠
 - ・ 9月28日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・ 9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・ 多湿ほ場で発生が多いので、溝の手直しや排水溝の掘り下げなど排水対策を徹底する。
 - ・ 刈遅れは発病を助長するので、適期刈取を徹底するとともに、収穫後は速やかに乾燥する。
 - ・ 防除指針：56ページ参照



図 11 紫斑粒

2 フタスジヒメハムシ

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
- (2) 予報の根拠
 - ・ 8月25日調査の払い落とし虫数は0.33頭で、平年(0.35頭)並であった。(±)
 - ・ 9月28日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・ 払い落とし調査を行いほ場での発生推移を確認し、第2世代成虫の発生初期から盛期(9月上旬頃)までに防除する。
 - ・ 防除指針：59 ページ参照



図 12 フタスジヒメハムシ成虫

3 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 8月25日調査の寄生株率は1.1%で、平年(2.6%)より低かった。(－)
 - ・ 9月28日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・ 9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針：58 ページ参照



図 13 葉に寄生するアブラムシ

4 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ フェロモントラップによる7月5半旬～8月4半旬の累計誘殺数は106頭で、平年(193頭)より少なかった。(－)
 - ・ 9月28日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・ 9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針：60 ページ参照

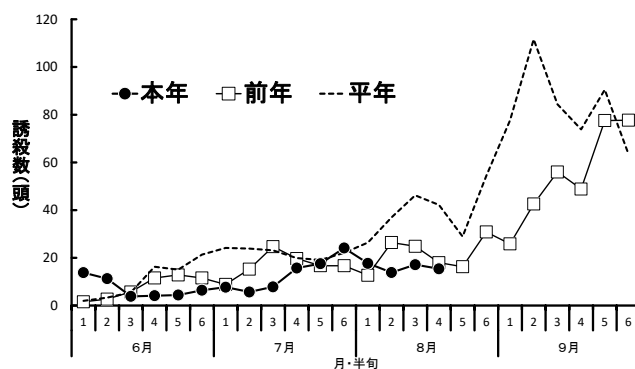


図 14 ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺数の推移



図 15 ハスモンヨトウの幼虫

5 吸実性カメムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量 : **多い**
- (2) 予報の根拠
- ・ 8月25日調査の払い落とし虫数は0.48頭で、平年(0.17頭)より多かった。
(+)
 - ・ 9月28日にかけての気温は高いと予想されている。(+)
 - ・ 9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 令和8年8月14日発表の病虫害発生注意報第5号参照、防除指針: 58~59 ページ参照



図16 ダイズ吸実性カメムシ類
(左)イチモンジカメムシ、(中)トゲシラホシカメムシ、
(右)ホソヘリカメムシ



図17 吸実性カメムシ類による被害粒

6 ハダニ類

- (1) 予報内容 発 生 量 : **やや多い**
- (2) 予報の根拠
- ・ 8月25日調査の被害株率は25.1%で、平年(17.9%)より高かった。(+)
 - ・ 9月28日にかけての気温は高いと予想されている。
(+)
 - ・ 9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 高温・乾燥条件下では短期間で増殖し、被害が多発する。ほ場でハダニ類の被害が確認され、高温・乾燥条件が続くと予想された場合は、薬剤による防除を行う。
 - ・ 防除指針: 57 ページ参照



図18 ハダニ被害葉

Ⅲ 野 菜

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる7月5半旬～8月4半旬の累計誘殺数は106頭で、平年(193頭)より少なかった。(－)
- ・9月28日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- ・9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・防除指針：71～129 ページのハスモンヨトウの項参照

2 ネキリムシ類 (タマナヤガ、カブラヤガ)

(1) 予報内容 発 生 量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる8月1半旬～8月4半旬の誘殺数は、タマナヤガが31頭で平年(26頭)並、カブラヤガは68頭で平年(47頭)より多かった。(＋)
- ・9月28日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・ほ場周辺の雑草は、播種・定植前に除去する。
- ・定期的にはほ場を見回り、食害の早期発見に努める。
- ・防除指針：73～132 ページのネキリムシ類の項参照

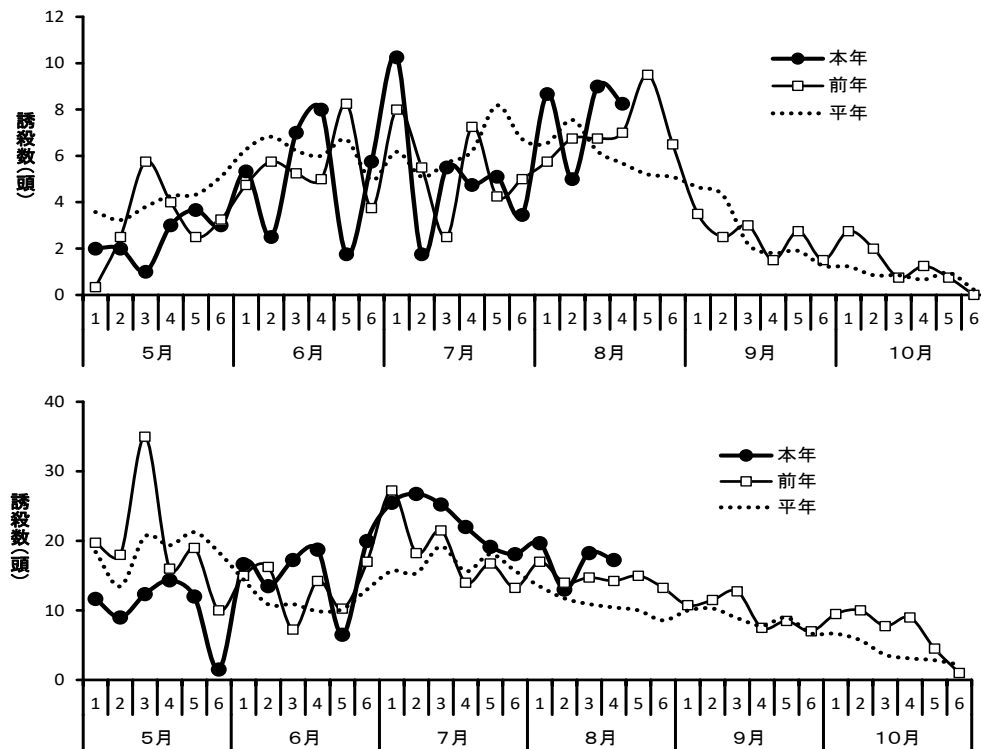


図 19 フェロモントラップへのタマナヤガとカブラヤガの誘殺数の推移
(上：タマナヤガ 下：カブラヤガ)

3 タバコガ類

(1) 予報内容 発 生 量：多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる 7 月 6 半旬～8 月 5 半旬の累計誘殺数はタバコガが 16.4 頭で平年（35.3 頭）より少なく、オオタバコガは 89 頭で平年（40.4 頭）より多かった。（+）
- ・9 月 28 日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
- ・9 月 28 日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）

(3) 防除対策

- ・令和 8 年 7 月 14 日発表の病虫害発生予察注意報第 4 号参照（オオタバコガ）
- ・防除指針：71～132 ページのオオタバコガの項参照

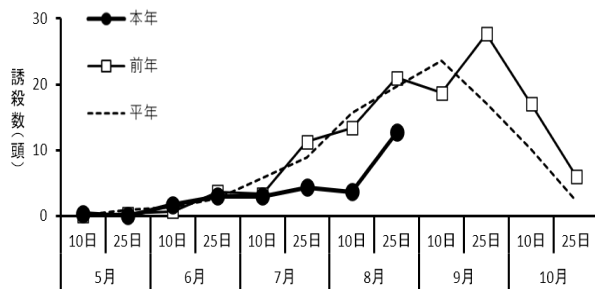


図 20 タバコガのフェロモントラップ誘殺数推移

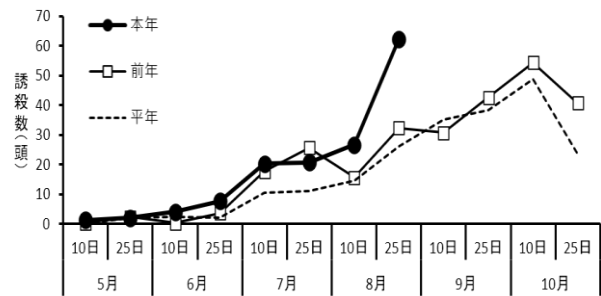


図 21 オオタバコガのフェロモントラップ誘殺数推移

4 白ねぎのさび病

(1) 予報内容 発 生 量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・夏病斑の発生盛期である 7 月 10 日調査の発病株率は 20.0%と平年（27.4%）よりやや少なかった。（－）
- ・9 月 28 日にかけての気温は高いと予想されている。（－）
- ・9 月 28 日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）

(3) 防除対策

- ・気温が低下すると発病が増加するので、定期的に予防剤を散布するとともに、発生がみられた場合は治療効果の高い剤で防除する。
- ・防除指針：100～101 ページ参照

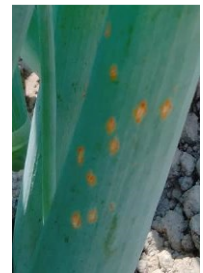


図 22 さび病の葉の病徴（夏孢子）

5 白ねぎの軟腐病

(1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

- ・8 月 25 日調査では発病株はみられなかった。（－）
- ・9 月 28 日にかけての気温は高いと予想されている。（+）
- ・9 月 28 日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）

(3) 防除対策

- ・発病株は速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- ・薬剤散布は発生初期の防除に努め、必ず展着剤を加用して、株元まで薬液が十分に付着するよう丁寧に散布する。
- ・防除指針：102 ページ参照

6 白ねぎの黒斑病・葉枯病

(1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 8月25日調査の発病株率は5.6%で、平年(10.7%)より低かった。(－)
- ・ 9月28日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- ・ 9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ 気温が高く、降雨が多い場合に多発しやすいので、発病初期から定期的に薬剤を散布する。
- ・ さび病やネギアザミウマ、ネギハモグリバエ等の病害虫の被害は本病の発生を助長するため、他の病害虫を含めて薬剤防除を計画的に実施し、葉先枯れの防止に努める。
- ・ 防除指針：101 ページ参照



図 23 黒斑病の病徴

7 白ねぎのネギアザミウマ

(1) 予報内容 発 生 量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 8月25日調査の被害株率は77.6%と平年(49.7%)より高かった。(＋)
- ・ 9月28日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- ・ 9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ 土寄せ毎に粒剤を施用し、密度が低い状態を維持する。被害が多くみられる場合は、液剤等で随時防除を行う。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤をローテーションで使用する。
- ・ 防除指針：103 ページ参照



図 24 ネギアザミウマと被害葉

8 白ねぎのネギハモグリバエ

(1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 8月25日調査の被害株率は0.8%と平年(15.0%)より低かった。(－)
- ・ 9月28日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- ・ 9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ 土寄せ毎に粒剤を施用し、密度が低い状態を維持する。被害が多くみられる場合は、液剤等で随時防除を行う。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤をローテーションで使用する。
- ・ 防除指針：102 ページ参照



図 25 ネギハモグリバエの産卵痕(左)と幼虫による被害(右)

9 白ねぎのシロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発 生 量：多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる7月6半旬～8月5半旬の累計誘殺数は167.2頭で、平年(130.9頭)よりやや多かった。(+)
- ・9月28日にかけての気温は高いと予想されている。(+)
- ・9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)



図 26 中齢幼虫(左)と被害葉(右)

(3) 防除対策

- ・ほ場を定期的に確認し早期防除に努める。中～老齢幼虫はネギの葉身内に侵入し、薬剤の効果が低くなるため、若齢幼虫期までに防除を実施する。
- ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤をローテーションで使用する。
- ・令和8年6月12日発表の病害虫発生予察注意報第2号、防除指針:103ページ参照

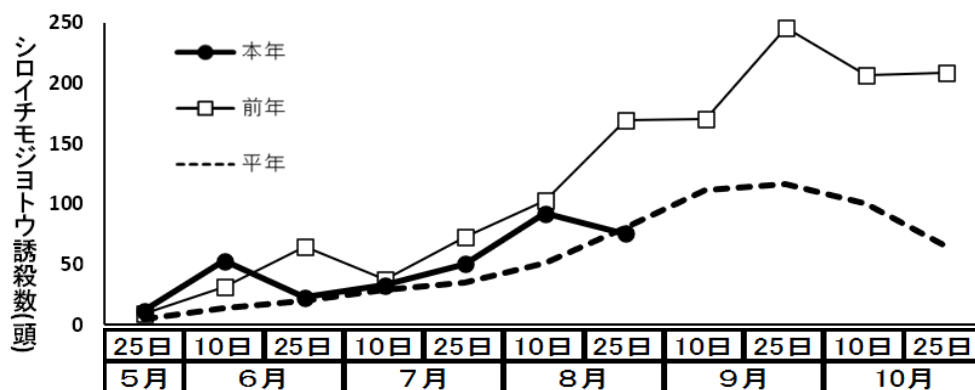


図 27 フェロモントラップにシロイチモジヨトウ誘殺数の推移

IV 果樹

1 果樹のカメムシ類

(1) 予報内容 発 生 量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる7月4半旬～8月3半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は2.1頭で、平年(1.9頭)並であった。(±)
- ・9月28日にかけての気温は高いと予想されている。(+)



図 28 チャバネアオカメムシの成虫(左)と卵(右)

(3) 防除対策

- ・令和8年5月21日発表の病害虫発生予察注意報第1号参照
- ・防除指針：りんご 144、148～149 ページ、日本なし 156、160～161 ページ
ぶどう 167 ページ、かき 171～172 ページ

2 りんごの褐斑病

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
- ・現在までの発生量は平年並である。(±)
 - ・9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)



図 29 葉の初期病斑（左）進行した病斑（右）

- (3) 防除対策
- ・台風等風雨後や長雨が予想される場合には、トップジンM水和剤（1,500倍、収穫前日まで）を散布する。
 - ・主枝や垂主枝から発生している新梢を適宜整理するとともに、枝つりや支柱入れを行い薬剤の到達性を高める。
 - ・防除指針： 139～142、147 ページ参照

3 りんごの炭疽病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・現在までの発生量はやや多い。(＋)
 - ・9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)



図 30 炭疽病のり病果

- (3) 防除対策
- ・り病した果実は見つけ次第、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生の多い園地では、オーソサイド水和剤 80（800 倍、収穫前日まで）を散布する。
 - ・防除指針： 139、141～142、147 ページ参照

4 りんごのハダニ類

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
- ・現在までの発生量はやや少ない。(－)
 - ・9月28日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)



図 31 ナミハダニの成虫

- (3) 防除対策
- ・園地の草刈りを定期的実施し、下草での増殖の低減に努める。
 - ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、発生がみられた際は早期防除に努める。
 - ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
 - ・殺ダニ剤は散布むらがあると効果が低下するので、丁寧に散布する。
 - ・殺ダニ剤は薬剤抵抗性が発達しやすいので、RAC コードを参考に同一系統の薬剤は年1回の使用とする（アカリタッチ乳剤は除く）。
 - ・防除指針： 144～146、148～149 ページ参照

5 りんごのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・現在までの発生量は少ない。（－）
- (3) 防除対策
 - ・被害果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針：143～144、148～149ページ参照



図 32 カイガラムシによる被害果

6 りんごのシンクイムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる 7 月 4 半旬～8 月 3 半旬の誘殺数は55.3頭で平年(21.1 頭)より多かった。（＋）
- (3) 防除対策
 - ・被害果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針： 143～144、148～149ページ参照

7 日本なしの黒星病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量は平年より少ない。（－）
 - ・9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
 - ・り病した果実や葉は、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生の多い園地は、幸水収穫後にオーソサイド水和剤 80（1,000 倍、収穫 3 日前まで）を散布する。
 - ・防除指針：152～155、159 ページ参照



図 33 黒星病のり病果

8 日本なしのハマキムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる 7 月 4 半旬～8 月 3 半旬の誘殺数は3.1頭で、平年(0.7 頭)より多かった。（＋）
- (3) 防除対策
 - ・被害葉は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生の多い園地では、9 月上中旬にアグロスリン水和剤（2,000倍、収穫前日まで）を散布する。
 - ・防除指針： 152、155～156、160～161 ページ参照

9 日本なしのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる 7 月 4 半旬～8 月 3 半旬の誘殺数は31.6頭で平年（6.6頭）より多かった。（＋）
- (3) 防除対策
 - ・被害果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生の多い園地では、アグロスリン水和剤（2,000倍、収穫前日まで）を散布する。
 - ・防除指針： 152、155～156、160～161ページ参照

10 日本なしのハダニ類

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
- (2) 予報の根拠
 - ・現在までの発生量はやや多い。（＋）
 - ・9月28日にかけての気温は高いと予想されている。（＋）
 - ・9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
 - ・園地の草刈りを定期的に行い、下草での増殖の低減に努める。
 - ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、発生がみられた際は早期防除に努める。
 - ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
 - ・殺ダニ剤は散布むらがあると効果が低下するので、丁寧に散布する。
 - ・殺ダニ剤は薬剤抵抗性が発達しやすいので、RACコードを参考に同一系統の薬剤は年1回の使用とする（アカリタッチ乳剤は除く）。
 - ・防除指針： 156～158、160～161ページ参照

11 日本なしのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量は少ない。（－）
- (3) 防除対策
 - ・防除指針：155～156、160～161 ページ参照



図 34 ナシマルカイガラムシによる被害果

12 ぶどうのべと病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量は少ない。（－）
 - ・9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
 - ・り病した果房や葉などは、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生がみられた際は、銅水和剤又は硫黄・銅水和剤（収穫前日数は制限なし）を散布する。ただし、高温時に散布すると、薬害が発生するおそれがあるので注意する。
 - ・防除指針：163～166ページ参照

13 ぶどうの黒とう病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
- ・現在の発生量は少ない。(一)
 - ・9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・り病した果房や葉などは、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生がみられた際は、銅水和剤又はサンケイ園芸ボルドー（収穫前日数は制限なし）を散布する。ただし、高温時に散布すると、薬害が発生するおそれがあるので注意する。
 - ・防除指針：164～166ページ参照

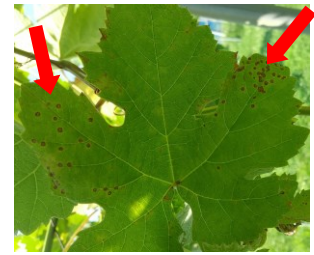


図 35 黒とう病のり病葉

13 かき（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
- ・フェロモントラップによる7月4半旬～8月3半旬の累計誘殺数は92.5頭で、平年（96.5頭）並であった。(±)
- (3) 防除対策
- ・発生の多い園地では、コルト顆粒水和剤（2,000～3,000倍、収穫前日まで）を散布するとともに、主幹や主枝の基部に古布や新聞紙等を巻きつける「バンド誘殺」を行う。
 - ・防除指針：169、171～172ページ参照



図 36 フジコナカイガラムシの雌成虫

14 もものせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
- ・現在の発生量は平年並である。(±)
 - ・9月28日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・病原細菌の越冬密度を低下させるため、9月中旬～下旬にICボルドー412（30倍）を2回散布する。
 - ・台風等強風が予想される場合は、事前にICボルドー412（30倍）を散布する。
 - ・防除効果を高めるため、散布前に秋季せん定を実施する（作業終了後、速やかに切り口に保護殺菌剤を塗布する）。
 - ・防除指針：174～175、178ページ参照

V 花き

1 きくのアブラムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・ 8 月 25 日調査のキクほ場において 1 葉虫数は 0.61 頭で、平年 (0.12 頭) より多かった。(＋)
 - ・ 9 月 28 日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・ 9 月 28 日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：193～216 ページのアブラムシ類の項参照

2 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ フェロモントラップによる 7 月 5 半旬～8 月 4 半旬の累計誘殺数は 106 頭で、平年 (193 頭) より少なかった。(－)
 - ・ 9 月 28 日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・ 9 月 28 日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：202～220 ページのハスモンヨトウの項参照

3 タバコガ類

- (1) 予報内容 発 生 量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・ フェロモントラップによる 7 月 6 半旬～8 月 5 半旬の累計誘殺数はタバコガが 16.4 頭で平年 (35.3 頭) より少なく、オオタバコガは 89 頭で平年 (40.4 頭) より多かった。(＋)
 - ・ 9 月 28 日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・ 9 月 28 日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 令和 8 年 7 月 14 日発表の病虫害発生予察注意報第 4 号 (オオタバコガ)
 - ・ 防除指針：201～220 ページのオオタバコガの項参照

特定外来生物クビアカツヤカミキリの発生状況について

県内では未確認ですが、近隣県において特定外来生物^{注1)}であるクビアカツヤカミキリの発生が相次いで報告されています。クビアカツヤカミキリは東アジア原産の昆虫で、モモ、ウメ等サクラ属果樹を加害し、近年では果樹園においても被害が確認されています。果樹園地において、クビアカツヤカミキリの成虫と思われる個体を発見した場合は、その場で捕殺し、園芸研究所果樹研究センターまたは農業研究所病理昆虫課まで連絡してください。

注1) 特定外来生物とは、外来生物のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼすものや、被害を及ぼすおそれがあるもののなかから、外来生物法に基づき国が指定した生物を指します。特定外来生物は、外来生物法により飼育・運搬・保管等が規制されています。



クビアカツヤカミキリの成虫（左）と幼虫が排出したフラス（右） ※植物防疫所原図

クビアカツヤカミキリの確認状況
(令和8年8月時点)



令和8年度農薬危害防止運動の実施について

- 全国運動のテーマ：「使用前、周囲よく見て ラベル見て」
- 富山県の運動期間：農薬の繁用期である「4月1日～9月30日」

○適切な農薬を選択するとともに、使用量・時期・回数等の遵守に努めましょう

農薬を使用する場合は、登録や防除予定の作物に適用のある農薬を選択することが必要です。農薬を使用する際には、使用前に容器等のラベルの内容を確認し、農薬の使用量、希釈倍率、使用時期、回数等の使用基準を守りましょう。

○周辺作物や近隣住宅等への農薬の飛散防止対策に努めましょう

農薬は適用作物以外に使用できません。

また、周辺作物への農薬飛散を防止する取組が必要です。風向き等に気をつけるなど飛散防止への注意を払いましょう。

さらに、農薬を散布する場合は近隣住宅や農家、養蜂家に対して農薬散布計画等の情報についても周知に努めましょう。

北陸地方 1か月予報
(予報期間 8月29日から9月28日)

8月27日
新潟地方気象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

- ・7月から暖かい空気に覆われ、気温の高い状態が続いています。今後1か月程度も、暖かい空気に覆われやすいため気温の高い状態が続く見込みで、向こう1か月の気温は高いでしょう。
- ・7月から高気圧に覆われやすく、降水量の少ない状態が続いている所があります。向こう1か月の降水量はほぼ平年並ですが、これまでの少雨の状態が解消されない所がある見込みです。

	平均気温（向こう1か月）	降水量（向こう1か月）	日照時間（向こう1か月）
北陸地方	低10 並30 高60% 高い見込み	少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み
数値は予想される出現確率（%）です	平均気温（1か月） 低い確率 50 40 40 50 高い確率 (%)	降水量（1か月） 少ない確率 50 40 40 50 多い確率 (%)	日照時間（1か月） 少ない確率 50 40 40 50 多い確率 (%)

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課
TEL 076-429-5249 FAX 076-429-7974
富山県農林水産総合技術センター 園芸研究所 果樹研究センター
TEL 0765-22-0185 FAX 0765-22-6930
情報参考 URL <https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>

